

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

事業番号	02 04 01	中期総合計画主要施策番号	5-08	担当課	部・課	企画部 交通政策課	
事業名	信州まつもと空港活性化事業			内線	3738		
				E-mail	kotsu@pref.nagano.lg.jp		
実施期間	H6 ~	根拠法令等	信州まつもと空港利用促進協議会規約、緊急雇用創出事業実施要領				
実施方法	信州まつもと空港利用促進協議会（県・市町村・経済団体等の98団体）へ負担金を支出等し実施					国庫・県単	県単独事業

事業の概要等	目的（必要性）	県、市町村、経済団体等の関係機関が一丸となって「信州まつもと空港」の利用促進の取組を推進することにより、定期便の安定的な運航とチャーター便の運航を実現し、もって空港がより県民にとって活用されることを目指す。				
	対象	・「信州まつもと空港」発着便の利用者 ・長野県民、福岡県民等利用促進対象者				
	目指すべき姿	「信州まつもと空港」利用者への支援や定期便の認知度向上などについて関係機関と連携して取り組み、「信州まつもと空港」発着の定期便とチャーター便の利用者数の増加を目指す。				
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる認知度アップ・運航情報の周知（信州まつもと空港利用促進協議会への負担金） ・福岡地区におけるテレビスポットCMの放送、福岡線の認知度調査の実施、フジドリームエアラインズ（FDA）就航1周年記念イベントの開催など ・空港利用者への支援（信州まつもと空港利用促進協議会への負担金） ・利用促進キャンペーンの実施、旅行商品販売奨励金の交付など ・国際・国内チャーター便の誘致促進 ・チャーター便企画旅行会社への助成など 				

事業コスト	区 分		単位	22年度	23年度	24年度（当初）	23年度事業費の主な内訳 信州まつもと空港利用促進協議会事業22,000千円（内訳：県負担金22,000千円 / 当初18,900千円から国内チャーター便等の増により2,800千円を増額） 信州まつもと冬期利用促進キャラバン事業（H23緊急雇用創出事業活用）8,604千円
	最終予算額（A）		千円	55,892	30,604	19,200	
	決 算 額（B）		千円	55,892	30,604		
	B（H24はA）のうち一般財源		千円	55,892	22,000	19,200	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	3.00	3.00	3.00	
		概算人件費（C）	千円	24,951	24,774	24,774	
概算事業費（B（H24はA）+ C）		千円	80,843	55,378	43,974		

事業実績	成果指標・活動指標内容		単位	22年度	23年度	24年度（見込）	左記以外のH23年度実績 ・「FDA就航1周年記念セレモニー」を開催 ・「FDA就航後利用者10万人達成記念セレモニー」を開催 ・「2011スカイフェスティバルin松本」を開催 ・「信州まつもと空港冬期利用促進キャラバン事業」12月16日～3月16日 市町村、経済団体等176箇所訪問（効率指標 算出式） 概算事業費 / 信州まつもと空港利用者数
	信州まつもと空港利用者数（成）		人	80,207	75,537	80,000	
	国際チャーター便運航便数（成）		便	6	8	8	
	国内チャーター便運航便数（成）		便	47	52	50	
	<効率指標（単位当たりコスト等）> 空港利用経費		千円 / 人	1.0	0.7	0.5	

事業の成果	事業の目標（H23）			事業成果・評価			評価区分
	・定期便の認知度向上のための施策展開により、安定的な定期便の運航を実現するとともに、前年度以上の利用率の向上を目指す。 ・前年度並みの国際及び国内チャーター便の運航を確保する。			・定期便については、旅行会社が企画販売する旅行商品に対する支援策が周知され、団体客の利用が伸展し、前年度の実績以上の利用率を達成した（57.1% 64.5%）。 ・国際チャーター便については、前年度の実績を上回る8便、国内チャーター便についても、前年度の実績を上回る52便が運航された。			b 期待どおり

事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明			
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・FDA就航3年目を迎え、県内外において認知度は着実に向上してきており、福岡線の利用率も増加していることから、「信州の翼」として定着しつつある状況を維持し、安定させる必要がある。 ・チャーター便についても空港の活性化を図る観点から、引き続き、運航増を図る必要がある。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	事業改善（有効性・効率性）の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		

総合分析等	総合分析（今後の課題、取組方針等）	空港の活性化のためには、まずは「信州まつもと空港」発着の定期便の運航が基本となることから、FDAによる定期便が「信州の翼」として将来にわたって安定的に運航されるよう、引き続き、県、市町村、経済団体等の関係機関が一丸となって利用促進の取組を推進し、特に冬場の利用率向上や二次交通の充実を図る必要がある。				
	特記事項	のH23利用者がH22比で減となっているが、これは定期便の静岡線（運航期間：H22.10.31～H23.3.31、利用者数：10,835人、利用率47.4%）の運休によるものであり、札幌線と福岡線のための比較においては、実質的に増加している。				